

【 投薬 】

780 慢性便秘症に対するルビプロストン等の併用投与について

《令和8年1月30日》

○ 取扱い

慢性便秘症に対して、ルビプロストン（アミティーザカプセル）、リナクロチド（リンゼス錠）、エロビキシバット（グーフィス錠）、これら3つの薬剤はそれぞれ作用機序が異なるため、3剤のうち2剤の併用は原則として認められる。

○ 取扱いを作成した根拠等

3種の便秘治療薬のうち、エロビキシバットは「胆汁酸トランスポーター阻害薬」に、ルビプロストンとリナクロチドは「粘膜上皮機能変容薬」に分類されている。

ルビプロストンとリナクロチドについては、作用機序として、最終的には腸管内にC1イオンを分泌させることにより腸管内への水分分泌を促進させて排便を促進させるものの、C1イオン分泌までの作用機序が異なること、またリナクロチドは知覚神経を抑制して大腸感覚過敏を改善させる作用を持つことから、作用機序が異なっている。

以上のことから、これら3つの薬剤は、それぞれ作用機序が異なるため、3剤のうち2剤の併用は原則認められると判断した。